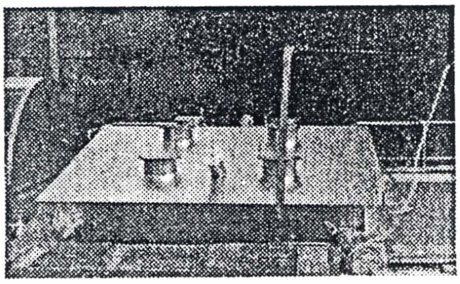
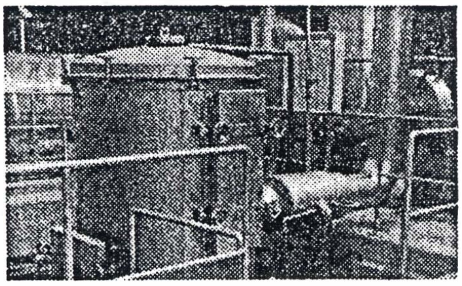
經營新聞　1995年(平成7年)5月15日

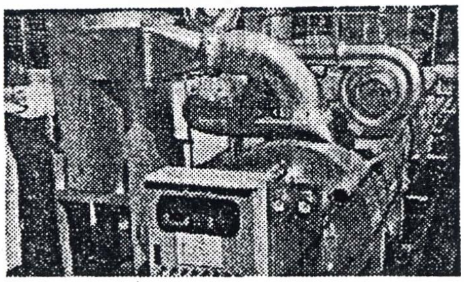
超小型のゴミ処理システム

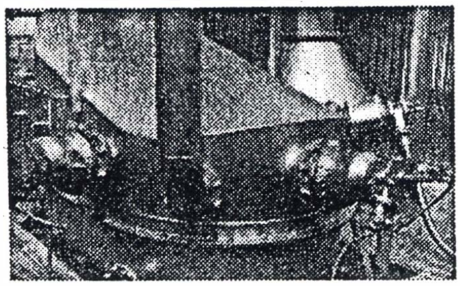
団地内にも設置可能

日本環境保全㈱が開発


①自転車などの粗大ゴミ焼却炉


②廃タイヤ焼却炉


③ロータリーキルン焼却炉


④焼却灰を完全溶融する溶融炉

団地やホテル、工場などにも設置可能な超小型で低コストの溶融炉を使ったゴミ処理システム「JOB－021」が開発された。茨城県牛久市にある日本環境保全㈱が茨城県工業試験所や筑波大の協力を得て、5年の歳月をかけて開発したもの。

このゴミ処理システムは、日本一の小型というだけでなく、900～1700℃（溶融炉は2200℃）という高熱で処理をし、その後に二次燃焼処理、溶融処理（いずれも排煙処理）というステップを踏むところから、臭気や有毒ガス等も完全に排除され、これまでの〝ゴミ処理〟のイメージを完全に一変させている。また、施設は埋設できることで、景観をそこねることもない。

このシステムは①粗大ゴミ焼却炉（自転車、テレビ、冷蔵庫、木材等の処理が可能）②廃タイヤ焼却炉③ロータリーキルン焼却炉（生ゴミ、低カロリー廃棄物、汚泥等を焼却）④溶融炉（①～③からの焼却灰を高温で燃焼させて0・5～2・5ミリのスラッジにする＝スラッジは建設骨材として利用が可能）⑤排煙処理装置－という5つの施設をセットして成り立つ。

従来のストーカー式のゴミ処理では、生ゴミの5分の1が残滓として残るとされているが、開発されたシステムの、最終的に用いられる「溶融炉」は、2200℃という高温に耐えられる炉壁素材（セラミック）の開発で残滓はほぼ残らず、超小型化、超コンパクト、低コストパフォーマンスを実現させている。

日量50トンの処理能力がある設備は、これまでのものは約30～50億円かかるとされているが、同システムでは約16億円程度。さらに、設置スペースも100～130坪の小スペースですむ。

ご注意
過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。
日本環境保全株式会社